

Title	ローマ文学史(ワイト・ダッフ 岩崎良三譯)
Sub Title	
Author	近山, 金次(Chikayama, Kinji)
Publisher	三田史学会
Publication year	1942
Jtitle	史学 Vol.21, No.1 (1942. 9) ,p.122- 122
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19420900-0122">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19420900-0122</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

すべきである。

終に新版を世に紹介すると共に、舊版の編者中川家三翁の靈を敬弔し、新版の編纂主任中村林一氏並に澤直一、樋口元兩氏の公職の餘暇に拮据勵精し本志の完結に努力せし勞苦に深厚の敬意を表するのである。(昭和十六年十二月廿三日夜 武田勝藏)

## ローマ文學史

(ワイト・ダッフ  
岩崎良三譯)

さきにペトロロニウスの「トリマルキオーの饗宴」の譯文を上梓された長友、岩崎良三君は今般さらにダッフ教授の書を中心としてローマ文學一般に對する詳細な紹介を試みられた。相尋ぐ學績、その努力には洵に敬服する次第である。

本書はダッフ教授の「ローマ作家論」を中心に同氏の「ローマ文學史」及び「ローマ諷刺論」を参照しつつローマ文學一般に關する知識をまとめられたもので、文中に於ける原典引用は極めて豊富であり、岩崎君の説かれる如く、今日、ローマ文學の作品の本邦に翻譯紹介せられてゐるものがまことに僅少である點に鑑み、かかる絶好の入門書を得たことは吾人の深く喜びとするところである。

内容は所謂、ローマ文學の發祥から、キケロー、カエサルの時代を経て、アウグストゥス時代に及び、更に帝政銀時代の詩歌、散文を論じて餘すところがない。なほ附録として「ウエヌスの宵祭」が譯出されてゐる。

今日、本邦學界に於て盛んに新しき世界史觀が叫ばれ、吾人は

この新時代の建設を前にして嚴正なる意味で西歐文化の再檢討を試みねばならぬ地位にあり、その批判が西歐文化の源泉たるギリシア、ローマの古典文化に對する理解なくしては不可能であることを思へば、今日かかる出版を見たことが誠に意義深きものであることを痛感せざるを得ぬ。

ただ慾を言へば此の書は「史」と言ふには餘りにも脈絡がない。つらぬいて流れてゐるものが無い。其處には時代もミリュエも描かれてゐない。各作家が順々に手際よく紹介されてゐるだけである。従つてこの書には「ローマ文學入門」と名をつけた方が一層よくその内容を傳へ得たことであらうと思ふ(青木書店發行)  
(昭十七・七・十二、近山金次)。